

佐竹典明 議員



食育、食農に関する基本法を町の施政として示せ

町長 推進計画は、具体的実践を目指しながら策定

共同調理場の民営化
佐竹 共同調理場は民営化でなく、現在と同じように運営すべきと思うがどうですか。
町長 民営化になっても現場で働く人が、今と同じようにに食育・食農の重要性、必要性を思っただけならば、変わらないものと思います。

町の施政
佐竹 食育・食農の重要性を考える時、国には食育法がありますが、不足を補つものとして、町の食育・食農基本法を示せばと思います。どうですか。
町長 食育・食農の推進計画は、具体的実践を旨としながら策定していきます。



田んぼの学校（鮎貝小学校）

食農教育の実践

佐竹 高畠町立二井宿小学校は、学校近くの土地で野菜を育て、給食に5割使用を目指した取り組みで、東北農政局長賞を受賞しました。
町長 食育とは、単に望ましい知識を身につけることだけでなく、一家団らんを通じて思いやりの心や郷土の食文化、食に関する感謝の心などを育む幅広いものであり、食を通して人づくりにあると考えています。

町長 食育とは、単に望ましい知識を身につけることだけでなく、一家団らんを通じて思いやりの心や郷土の食文化、食に関する感謝の心などを育む幅広いものであり、食を通して人づくりにあると考えています。

地産物の使用拡大

佐竹 料理の工夫により、地産物をもっと使うことができると思うがどうですか。
教育主幹 現在30%を超えて地産物を使用しています。地産物の食材を使用するメ

自校での給食

佐竹 自校方式の給食も視野にいれて良いと思います。どうですか。
町長 当町の共同調理場は、

二ユーを増やすなど、納入関係者と連絡を取りながら工夫をしていきます。

ドライシステムを採用した衛生的で健康的な調理場で、栄養士をはじめ職員で知恵を出し合い、多様な献立に対応できるなど多くのメリットがあり、今までどおり共同調理場方式を推進していきます。

本木勝利 議員



鷹山夢街道 PART V 最上川

町長 最上川は貴重な財産

胸に抱く最上川とは
本木 町長は、本町に最上川という大きな財産があると言っています。最上川をどのようにとらえているか伺います。
町長 本町の中央を貫流する最上川は、貴重な財産であり、資源としてとらえ、最上川の持つ魅力と力をま

ちづくりにいかしていく必要があると考えています。
水質浄化に取り組む萩野地区の実態は
本木 最上川は、本町の河川の全てが注ぎ込み、身近な河川をきれいにすることは、最上川をきれいにすることです。昨年から萩野地区は、地区全体で河川浄化に取り組みましたが、実

態を伺います。
萩野地区は、全戸が協力して、米のとき汁をはじめ汚れたものを流さない活動をしています。また、EM菌を使い、EMぼかしやEM団子を活用して水質浄化に取り組んできました。

流域の歴史・文化の掘り起こし

本木 県は、最上川の世界遺産登録に向け、精力的に

取り組んでいます。本町においても流域の菖蒲、下山、佐野原、大瀬地区では、自ら歴史・文化を掘り起こそうとの運動が広がっているが、どのようにとらえていますか。
町長 流域の集落では、最上川の価値を中心に地域を見つめ、地域に誇りを持つ動きが、ふつと湧き出ています。このようなことは、地域づくりの基本であり、大いに期待をしています。



五百川溪谷

五百川溪谷を中心とした連携が必要

本木 最上川の世界遺産登録に向けて県が本町に期待することは、西村久左衛門が開削したといわれる「舟道」流域自治体の連携と、いわれはありますが、どのように対応するのか伺います。
副町長 大江町、朝日町と白鷹町の3町で最上川を活用した地域活性化のため、(財)地域活性化センターの支援を受け、歴史、文化自然を研究し、最上川を軸とした観光交流計画を策定したいと思っています。

まちづくりの求心力は最上川

本木 本町では、平成20年度を「最上川年」と位置づけ、集中して最上川に関するイベントを行ってほしいかと思

いますか。
町長 本町が発展するには、最上川は貴重な財産であることを真正面からとらえ、町民と一体感が導き出せる形にしたいと考えています。具体的には、今後検討をしていきます。